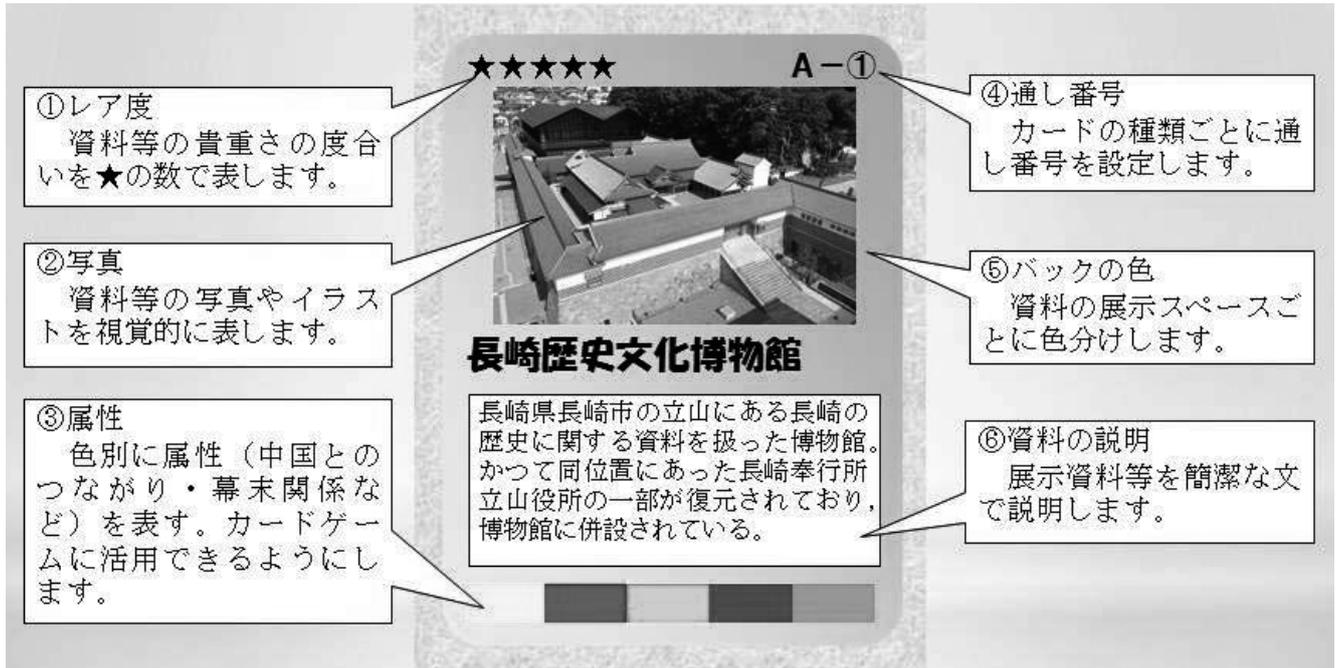


1年生	教科：	単元名：歴史に行こう！	年間を通じて	
実践校：長崎市立桜町小学校（実践案）		授業担当者：山田裕介		
目 標	低学年の子どもたちが、私たちの街長崎の歴史や文化について見学したり、話を聞いたりするなどの体験活動ができる長崎歴史文化博物館に気軽に足を運ぶことを通して、展示資料等の価値について理解し、高学年で歴史を学ぶ基礎を養う。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
<p>（低学年の子ども）</p> <p>○歴史カードをもとに、歴史文化博物館に足を運ぶ。</p> <p>（高学年の子ども）</p> <p>○歴史カードをもとに、歴史文化博物館に足を運び、資料の歴史的価値や文化的価値について学ぶ。</p> <p>（修学旅行生・観光客）</p> <p>○歴史カードをもとに、見学ルートなどの予定を立て、歴史文化博物館に足を運び、資料をもとに長崎の歴史や文化を感じ取る。</p>		<p>○低学年の子どもは、歴史や文化への興味関心がかなり低い。そこで、②の写真（学習活動の軌跡参照、以下略）で視覚的にとらえさせたり、①のレア度や③の属性で興味を持たせたりする。子どもたちは、星の数が多いカードや、色々な属性があるカードを見て、資料等の価値やその資料が歴史や文化にどのように関係しているのかをおぼろげながら掴ませることができる。</p> <p>○高学年の子どもは、歴史や文化への興味関心に個人差がある。そこで、興味関心が低い子どもには、低学年の子どもと同じ手立てにより、興味を引き出す。興味が高い子どもは、⑤のバックの色で資料を探したり、⑥の資料の説明を見たりする活動を通して、より歴史や文化への興味関心を高めたいと思う。また、④の通し番号を見て、コンプリート（すべて集める）を目指したりすることも考えられる。</p> <p>○修学旅行生（観光客）は、時間に制限があるので、歴史を巡るコースを設定する。たとえば、「長崎と中国文化～チャイナタウンの光と影～（仮）」というコースがあったとする。コースを選べるメディアからコース名を選択すると、そのコースに関係のあるカードを自動で選択してコースガイドを作成する。カードに載っている②の写真や資料名から実際の展示資料を見つけることで、長崎の歴史や文化を学ぶ事ができると考える。また、歴史のホームページでダウンロードできるようにしておけば、修学旅行や観光に来る前に各自コースを設定したり、好きなコースをプリントアウトしたりして持参し、来場者数が増えることも予想される。</p>		
評 価 規 準				

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

歴文カード（仮）



① レア度

★1つから7つまで（仮）設定する。展示資料等の価値を正確に表すという目的ではなく、価値についておぼろげながら理解する程度でよい。また、「レアカード（より貴重なもの）」も作ると、コレクターも満足すると考える。

② 写真

著作権等の関わりもあると思うが、カードに載せる写真は、画素数を落としておけば良いのでは。それでも難しい場合は、白くぼかして「unknown」などの張り紙をしておけば、実物を見たいという人も出てくると思う。

③ 属性

これはまだ思考中だが、黄色は中国関係、赤は幕末関係、青は・・・などの属性を設定しておけば、ただで長崎の歴史や文化との関わりが分かると考える。また、中国+幕末はオランダ+幕末より強い（関係が深い）などの強弱をつけておけば、カードゲームにも応用できると思う。

④ 通し番号

Aは施設関係、Bは中国との関わり関係などの通し番号を設定する。分類もしやすいし、コレクターも大満足。

⑤ バックの色

主に展示資料等があるエリアで色分けする。ただで館内のどの辺りにその資料等があるか分かる。

⑥ 資料の説明

簡潔な文で書くことで、もっと詳しく知りたいという気持ちをくすぐる。あまり詳細に書く必要はない。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

○カードの取り扱い

プリントアウトできるものは、厚上質紙のようなものでよい。実際に足を運んで見学した人には、ちゃんとしたカードを1日1枚渡すというようにすれば、カード自体の価値も高まると考える。また、カードのコンプリート具合でショップや入館料のサービスがあるなどの活用もできる。子どもたちも歴文に足を運ぶと考える。

○作成や維持

カードの作成や維持については、専門家に依頼した方がよい。費用対効果を十分に見極める必要がある。しかしながら、プリントアウトするものだけであれば、それほどの費用はかからないのではないだろうか。（手間暇はかかると思われるが・・・）。

1年生	教科：	単元名：歴文に行こう！	年間を通じて	
実践校：長崎市立桜町小学校（実践案）		授業担当者：山田裕介		
目標	低学年の子どもたちが、長崎歴史文化博物館（以後歴文）で、学習の中で私たちの街長崎の歴史や文化について見学したり、話を聞いたりする体験活動を通して、展示資料等の価値について理解し、高学年で歴史を学ぶ基礎を養う。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
(国語) 「こないしをみつけたよ」 「かけるようになった」 「かたかなをみつけよう」 「しらせたいな、みせたいな」 「たぬきの糸車」 「これは、なんでしょう」 「いいこといっぱい、1年生」 (算数) 「大きいかず」 (音楽) 「ことばをたいせつにして、きもちをこめてうたいましょう」 (図画工作) 「かんじたこと、おもったこと」 (生活科) 「がっこうにくるみちでみつけたよ」 「みんなのこうえんだね」		○…本来の学習活動 ●…歴文を活用した学習活動 ○ 見つけた石に名前をつけて紹介する。 ● 歴文の中で見つけたものに名前をつけて紹介する。 ○ 絵日記や手紙を書く。 ● 歴文のバックヤードツアーなどで印象に残ったことを絵日記に書いたり、見学のお礼の手紙を書いたりする。 ○ 学校生活の中で使うカタカナを学習する。 ● 歴文の中のカタカナを調べて学習する。 ○ 知らせたいものを絵と文で書いて紹介する。 ● 歴文の中で知らせたいものを絵と文で書いて紹介する。 ○ 絵や写真で糸車を知る。 ● 糸車の実物を見る。 ○ 問題を作るための事柄を集めて、問題を作る。 ● 問題を作るための事柄を歴文の中から集めて、問題を作る。 ○ 1年間の思い出アルバムを作る。 ● 歴文で学習したこと（活動したこと）を思い出アルバムの中に入れる。 ○ 100までの数字を見つける。 ● 歴文で使われている100までの数字を見つける。 ○ 歌詞をよく読んで、言葉の感じを大切に歌う。 ● 長崎に昔から伝わる歌の歌詞をよく読んで、言葉の感じを大切に歌う。 ○ 感じたことや思ったことを絵に描く。 ● 歴文を見学して、感じたことや思ったことを絵に描く。 ○ 通学路を探検して、安全に気をつけて登下校できるようにする。 ● 歴文の周りを探検して、安全に歩行できるようにする。 ○ 地域の公園や施設などに親しみ、仲良く遊ぶ。		

<p>「なつとなかよし」</p> <p>「たのしくあそんだよ」</p> <p>「あきとなかよし」</p> <p>「あきがいっぱいだね」</p> <p>「ふゆのなかよし」</p> <p>「おしえてもらったよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴文の内外の施設に親しみ、見学したり、仲良く遊んだりする。 ○ 夏のことを話し合う。 ● 長崎の夏のことを、町屋を見学して知る。 ○ いろいろな容器を使って遊び道具を作り、水や砂を使って遊ぶ。 ● 歴文の広場で、遊ぶ。 ○ 秋のことを話し合う。 ● 長崎の秋のことを、町屋を見学して知る。 ○ 地域の公園や施設などに親しみ、仲良く遊び、春の様子と比べる。 ● 歴文の内外の施設に親しみ、見学したり、仲良く遊び、春の様子と比べたり、新しく発見したりする。 ○ 冬のことを話し合う。 ● 長崎の冬のことを、町屋を見学して知る。 ○ 昔からの伝統的な遊びを、家族や地域の方に教えてもらい、遊びを工夫する。 ● 長崎に昔から伝わる伝統的な遊びを、歴文の方に教えてもらい、遊びを工夫する。 	
<p>評価 規 準</p>		

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

高学年，特に6年生は社会科の学習で歴文を活用することができる。しかしながら，他の学年，特に低学年はどのような場面で活動できるかが難しく，二の足を踏みがちである。

今回1年生が活動できる学習内容を挙げてみたが，「歴文でもできるよ」というレベルのことが多い。「歴文でなければ」「歴文で学ぶ方がいい」と思わせるような活動を計画して発信していくことで，見学者も増え，長崎に親しみ長崎を好きになる子どもたちが増えると考えられる。奇しくも，常設展示がリニューアルする今だからこそ，まず歴文に足を運ばせるような学習計画を歴文側から学校側に提案していかなければならないと感じる。そのための情報収集が今後必要だと思う。

3年生	教科:総合的な学習の時間	単元名:大すき長崎!うきうきたんけん	9月~12月	17時間
実践校:長崎市立上長崎小学校		授業担当者:馬場清子・梅枝理香・野川知彦		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎市の公共施設について興味を持ち、年中行事を調べたり、それぞれの施設で見学や体験活動をしたりを通して、郷土のよさに気づくことができる。 ・公共施設を利用することを通して、利用する際のマナーを身につけるとともに、公共の施設を使うことのよさに気づき、進んで学習や生活に生かそうとする態度を育てる。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○「長崎」という名前がつく行事・建物などについて知る。	1~3	・「長崎」についてのウェビングを行い、年中行事や建物について知る。		
○前時までに児童から出てきた言葉の中から、「おくんち」を取り上げ、調べる。	4~7 (7)	・本年度の「おくんち」の踊り町や出し物について、新聞などから情報を集める。		
○施設見学の計画を立てる。	1	・くんちの展示がある「長崎歴史文化博物館」の見学に行くことを知らせ、見学の計画を立てる。		
○施設見学のマナーについて学習をする。	2	・施設見学のマナーを考えさせ、しおりに決めたことを書かせる。		
○長崎歴史文化博物館に見学に行く。	3~6	・おくんちの資料を中心に、昔の長崎や上長崎地区のことについて調べ、どんな施設か見学を通して知る。		
○博物館について分かったことをまとめる。	7~10 (10)	・調べてきた時にとったメモなどをもとに、新聞にまとめるようにする。		
評 価 規 準	<p>(問題解決の能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの施設を知ることを通して、自分の課題を見つけ、施設を見学することで、興味をもったことを調べ、新聞にまとめることができたか。 <p>(情報活用能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を解決するために、必要な資料をパンフレットやインターネットを使い、調べることができたか。 <p>(自己の生き方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学にあたり、公共施設を利用するマナーを知り、適切に行動し、進んで利用しようとすることができたか。 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



※クラスに1名ずつガイドさんがついてくださり、展示室の案内をしてくださっている様子（企画展・常設展）



※ガイドさんの案内が終わり、残った時間で質問をしている様子



※おくちについておおまかな説明を全体にしている様子



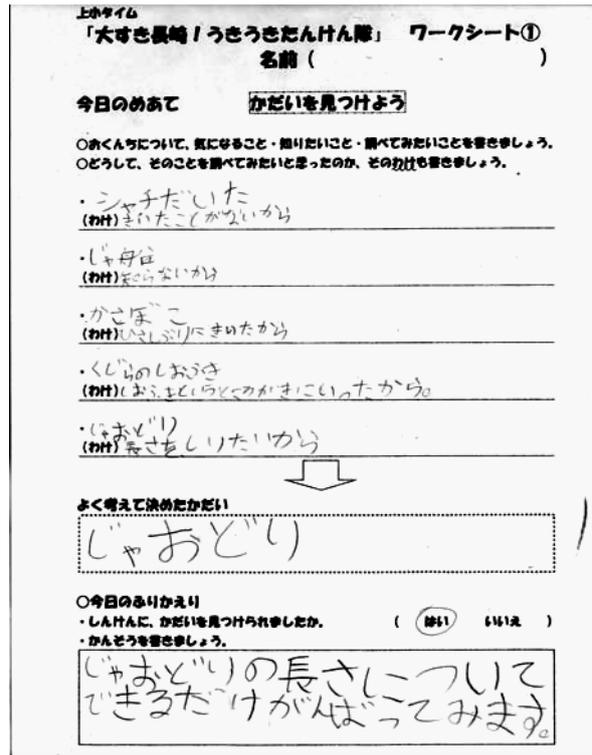
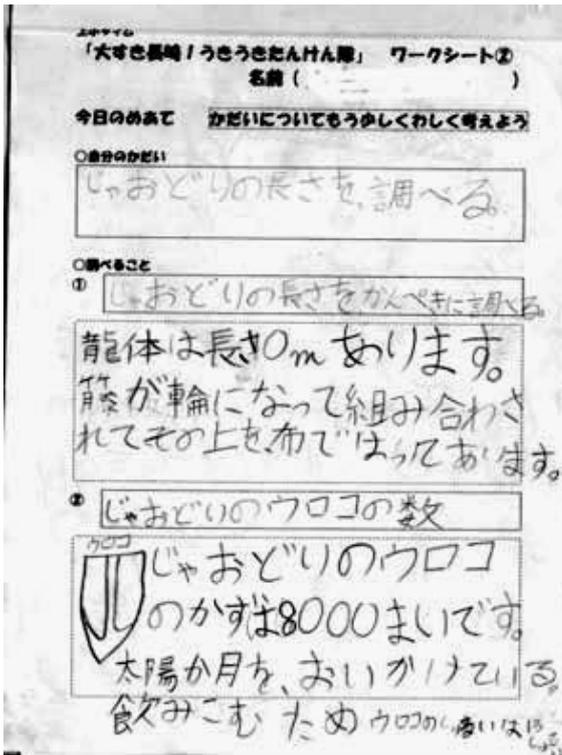
※説明後、残った時間で展示室を自由に見学をしている様子

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 一クラスに案内のガイドさんが1人ずつついて下さり、説明していただいたことが大変良かったです。
- 子ども達への説明の時、難しい言葉や声の大きさで、説明が分かりづらいことがありました。子ども向けの言葉でなるべく説明していただけると助かります。
- 長崎歴史文化博物館にてマナーの学習や調べ学習の仕方が身につき、長崎県美術館での見学に生かすことができました。

3年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：大すき長崎！うきうきたんけん隊	9月～12月	20時間
実践校：長崎市立上長崎小学校		授業担当者：山崎久美子・野川知彦		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長崎市の公共施設について興味を持ち、年中行事を調べたり、それぞれの施設で見学や体験活動をしたりすることを通して、郷土のよさに気づくことができる。 ○ 公共施設を利用することを通して、利用する際のマナーを身に付けるとともに、公共の施設を使うことの良さに気付き、進んで学習や生活に生かそうとする態度を育てる。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○「長崎」という名前がつくの行事・建物などについて知る。	3	○「長崎」についてウェビングを行い、年中行事や建物について知る。	社会科の年中行事	
○おくんちについて調べる。	5	○本年度の「おくんち」の踊り町や出し物について、新聞などから情報を集める。		
○施設見学の計画を立てる。	2	○おくんちの展示がある「長崎歴史文化博物館」の見学に行くことを知らせ、見学の計画を立てる。	社会科「さぐってみよう、人びとのしごと」	
○施設見学のマナーについて学習する。	1	○施設見学のマナーを考えさせ、しおりに決めたことを書かせる。	◎調べたことを新聞や、図表にまとめる方法を社会科で学ぶ。	
○長崎歴史文化博物館見学	4	○おくんちの資料を中心に、昔の長崎や上長崎地区のことについて調べ、どんな施設か見学を通して知る。	道徳 「みんなのもの」 「正しい言葉遣い」	
○博物館について分かったことをまとめる。	5	○新聞にまとめる。		
評価規準	<p>〈課題設定・解決の能力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの施設を知ることを通して、自分の課題を見つけ、施設を見学することで、興味をもったことを調べ、新聞にまとめることができたか。 <p>〈情報活用能力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を解決するのに必要な資料をパンフレットやインターネットを使い探すことができたか。 <p>〈自己の生き方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学にあたり、公共施設を利用するマナーを知り、適切に行動し、進んで利用しようとするのができたか。 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



10月 5日 3年 2組 名前

川舟台新聞

長さは何のくらいのかだいについて
 ・長さ…6.5m・はば…2.1m・高さ3.8m
 ・この町でしているのかだいについて
 ・こつじ屋町・えのきづ町・あぶらや町・やさか町・東吉川町

感そう
 めきし文化はく物館に行き、おくんちの事を今までより、ふかしくすることができました。ほかに、オランダまんざりやじやおどりのかだいの事も、とはめしなれたとおもいます。

調べた事
 何人でしているのかだいについて
 ・いらい…4人
 川舟台を動かす…16人
 車はどのくらいなのかだいについて…2台



10月 5日 3年 2組 名前

くじらのしおぶき新聞

くじらのしおぶきを調べようと思ったわけ
 わたしはまだ小さい時に1回だけくじらのしおぶきを見た事があって、その時にすこいなぁと思ったから、今、調べようと思いました。

調べたこと
 ・どうやって、水をだしているの?
 ・中に人が入って、ポンプのようなもので水をだしている。

おもさはどのくらいなの?
 ☆ 2トン!!

どうやってつくっているの?
 ☆ 竹で骨をつくり、ぬのは、はっている。

何人でもっているの?
 ☆ 17人!

かんそう
 長崎れきし文化はく物館に行き、いろいろな事を聞きました。わたしたちのきもんにしてるかだいの中にははく物館の人にも知らないくらいむずかしいこともありました。だから、はく物館の人よりおくんちの事を知るときたいです。




授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 今年はおくんちの企画展が大きかったので、子どもたちも大変興味深く見学を行うことができました。
- 2クラスの見学でしたが、1クラスが企画展を案内のガイドさんに説明をしていただき、その間に1クラスは体験コーナーを体験できよかったです。（1クラスの人数が多かったので、体験コーナーでは騒がしくなってしまう申し訳なかったです。）
- 子どもたちへの説明は大変分かりやすかったのでよかったです。（展示されているものに読み仮名などをふって頂けると、子どもたちももっと興味を持って見る事ができたのではと思いました。）
- 長崎歴史文化博物館にてマナーの学習や調べ学習の仕方をすこしずつ理解し、次の学習にいかそうとしていました。

3年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：大すき長崎！うきうきたんけん隊	9月～12月	20時間
実践校：長崎市立上長崎小学校		授業担当者：西崎ひろみ・梅枝理香		
目標	<p>○長崎市の公共施設について興味を持ち、年間行事を調べたり、それぞれの施設で見学や体験活動をしたりすることを通して、郷土のよさに気づくことができる。</p> <p>○公共施設を利用することを通して、利用する際のマナーをみにつけるとともに、公共の施設を使うことよさに気づき、進んで学習や生活に生かそうとする態度を育てる。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○「長崎」という名前がつく行事・建物などについて知る。	3	○「長崎」についてウェビングを行い、年中行事や建物について知る。	社会科 「昔の暮らし、今の暮らし」 長崎の年中行事	
○おくんちについて調べる。	5	○本年度のおくんちの踊り町や出し物について、新聞やホームページ等から情報を集める。		
○施設見学の計画を立てる。	2	○おくんちの展示がある「長崎歴史文化博物館」の見学に行くことを知らせ、見学の計画を立てる	社会科 「さぐってみよう、人々の仕事」 ◎調べたことを新聞や図表にまとめる方法を社会科で学ぶ。	
○施設見学のマナーについて学習する。	1	○施設見学のマナーを考えさせ、しおりに決めたことを書かせる。	道徳 「みんなのもの」 「正しい言葉遣い」	
○「長崎歴史文化博物館」の見学	4	○おくんちの資料を中心に、昔の長崎や上長崎地区の事について調べ、どんな施設か見学を通して知る。		
○博物館について分かったことをまとめる。	5	○新聞にまとめ、お互いに読み合う。		
評価 規 準	<p>(1) それぞれの施設を知るとを通して、自分の課題を見つけることができたか。 (課題設定・解決の能力)</p> <p>(2) 自分の課題を解決するのに必要な資料を見学やパンフレット、インターネットを使い探すことができたか。(情報活用能力)</p> <p>(3) 施設を見学することで、興味を持ったことを調べ、新聞等にまとめようとしているか。 (学習の主體的、創造的態度)</p>			

3年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：大すき長崎！うきうきたんけん隊	9月～12月	20時間
実践校：長崎市立上長崎小学校		授業担当者：隈本佳代子・安田一義		
目標	<p>○ 長崎市の公共施設について興味を持ち、年間行事を調べたり、それぞれの施設で見学や体験活動をしたりすることを通して、郷土のよさに気づくことができる。</p> <p>○ 公共施設を利用することを通して、利用する際のマナーを身に付けるとともに、公共の施設を使うことのよさに気づき、進んで学習や生活に生かそうとする態度を育てる。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○ 「長崎」という名前がつく行事・建物などについて知る。	3	○ 「長崎」についてウェビングを行い、年中行事や建物について知る。	道徳 「みんなのもの」 「正しい言葉遣い」 社会科 ◎調べたことを新聞や図表にまとめる方法を社会科で学ぶ。	
○ おくんちについて調べる。	5	○ 本年度のおくんちの踊り町や出し物について、新聞やホームページ等で情報を集める。		
○ 施設見学の計画を立てる。	2	○ おくんちの展示がある「長崎歴史文化博物館」の見学に行くことを知らせ、見学の計画を立てる。		
○ 施設見学のマナーについて学習する。	1	○ 施設見学のマナーを考えさせ、ワークシートに決めたことを書かせる。		
○ 「長崎歴史文化博物館」を見学する。	3	○ おくんちの資料を中心に、昔の長崎や上長崎地区のことについて調べ、どんな施設か見学を通して知る。		
○ 博物館について分かったことをまとめる。	4	○ 新聞にまとめ、お互いに読み合う。		
○ 「おくんち検定」発表会をする。	2	○ 調べたことをまとめた新聞を掲示したり、保護者を招いて「おくんちクイズ」を出したりする。		
評価 規 準	<p>(1) それぞれの施設を知ることを通して、自分の課題を見つけることができたか。 【課題設定・解決の能力】</p> <p>(2) 自分の課題を解決するのに必要な資料を見学やパンフレット、インターネットを使い探すことができたか。 【情報活用能力】</p> <p>(3) 施設を見学することで、興味を持ったことを調べ、新聞等にまとめようとしているか。 【学習の主体性・創造的態度】</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



博物館の方によるわかりやすい説明



質問コーナーでも丁寧に対応していただきました



授業参観「おくんち検定」



クイズ形式で学習したことを発表しました



クイズの後には説明もしました



おくんち関係の展示もしました

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 本校の総合的な学習の時間のカリキュラムに「3年生のおくんち調べ」を位置づけている。歴史文化博物館への見学も定着しており、年度当初から計画的に学習を進めることができた。
- 今回の学習では、事前に長崎くんちについて調べ、その中で分からなかったことを施設の方に質問するという流れで進めてきたが、事前の調べ学習が不十分であり、見学当日の「質問タイム」に1時間近くを要してしまった。全ての質問に丁寧に対応してくださる施設の方に感謝するとともに、もう少し質問事項を絞ってから見学すべきであったと反省している。
- 見学後は、調べた内容を新聞にまとめるとともに、「おくんち検定」を題したクイズも作らせた。発表会を授業参観日に設定したこともあり、当日は大いに盛り上がり、子どもたちも学習の達成感を味わうことができた。

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

- 公共施設の見学の際のマナーについて理解する機会ととらえ、「入館式」「退館式」の方に挨拶をさせていただく機会を設けた。子供たちにとっては緊張感を持って見学に望むことができた。
- 見学は自由見学とし、ボランティアガイドのお願いはしなかったが、当日町屋の前にいらっしゃったガイドさんが「長崎の昔の様子」をフロアに映し出してくださった。児童にとっては大変興味深い展示だったようで、自由時間に再び訪れみる子もいた。臨機応変に対応してくださって感謝している。
- 子供たちは「くんち展」で改めてくんちのすばらしさを感じたようで、学校に帰ってからのテーマに生かすことができた。

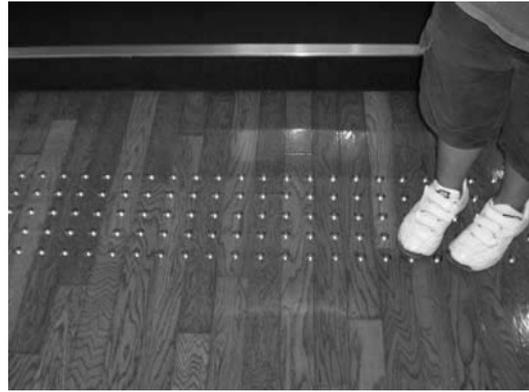
授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 今回は3年生を引率したことで、「公共のマナー」に重点を置いた学習となったが、見学がきっかけとなって家族で博物館見学に行ったり、博物館の催し物に参加したりする機会が増えたりした児童が複数いた。家庭での見学につながることは 大変喜ばしいことだと思う。
- 子供たちの見学の様子を見てみると、中学年という時期でも博物館の楽しみ方はたくさんあるように思う。ボランティアガイドの活用も視野に入れて、また利用したい。

4年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：高浜歴史文化博物館	9月～10月	12時間
実践校：長崎市立高浜小学校（実践案）		授業担当者：岩隈佳子		
目標	<p>○ 高浜の町にある歴史的価値のある物に興味をもち、自分たちの住む町を誇りに思う気持ちを育てる。</p> <p>○ 長崎歴史文化博物館の存在を知り、長崎の街や長崎の歴史にも興味関心を持つことが出来る。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 博物館がどんなところかを知り、身近な高浜の町にある歴史的な物に興味をもつ。	1	<p>○ 博物館がどんなところで、そこではどんな仕事をしている人がどんな気持ちで働いているのかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長崎歴史文化博物館の紹介 ・ 博物館で働く人たち ・ 学芸員の仕事 	(3)	
2 高浜の町の歴史的なものを探す。	2	<p>○ 高浜の町の歴史的な物について話し合い、写真を取りに出かける。</p> <p>例) 夫婦岩 軍艦島 小学校 八幡神社祭り 等</p>	(1)	
3 高浜の町の大切な物について調べる。	4	<p>○ 資料を用いて調べる</p> <p>○ 公民館で働く人や自治会長さんなどに聞いて調べる。</p>	(1) (2)	
4 情報カードを作り、調べて分かったことを掲示する。	2	<p>○ 調べて分かったことを情報カードにまとめていく。</p> <p>○ 校内にまとめたことを掲示し、他学年の児童に高浜の歴史を紹介する。</p>	(2) 国語「四年三組から発信します」	
5 長崎歴史文化博物館の見学に行く。	2	<p>○ 見学内容については、事前にスタッフと打ち合わせをしておく。4年生なのであまり難しい内容には触れず、見て楽しんだり、体験して楽しんだりする活動を重視する。</p>	(3)	
6 見学をふり返り、学習のまとめをする。	1	<p>○ 高浜や長崎の町の歴史を知り、驚いたことやもっと知りたいと思ったことを出し合い、郷土を大切に思う気持ちを高める事が出来るようにする。</p>	(2) (3)	
評価 規 準	<p>(1) 高浜の町にある歴史的価値のある物に興味をもち、意欲的に調べることができたか。</p> <p>(2) 高浜の町の歴史を知り、自分たちの住む町を誇りに思う気持ちを育てることができたか。</p> <p>(3) 長崎歴史文化博物館の存在を知り、長崎の街や長崎の歴史にも興味関心を持つことが出来たか。</p>			

4年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：「みんなで生きる」	9月～11月	26時間
実践校：長崎市立西山台小学校		授業担当者：中山美加		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な暮らしにある「福祉」についてもっと知りたいという意欲を持つ。 ○ 自分の関心に沿ったテーマについて調べ、身近な福祉について理解を高める。 ○ 福祉について調べたこと、感じたことを発表し、自分にできることについて実践力の向上を図る。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 「バリアフリー」の意味を学ぶ。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「バリアフリー」とは何か、簡単な説明ののち、身近な場面にないか思い起こさせる。 <p>実際の建物を見学し、バリアフリーの考え方についてより深く理解する。(長崎歴史文化博物館見学)</p>	ふれあいまつり	
2 福祉についてさらに学び、関心を高め、テーマを決める。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉をテーマにした「ブックトーク」を行い、テーマの幅を広げるとともに、学習への意欲を高める。 <p>〈ブックトークのテーマ：「みんなで生きる」〉 本のリスト</p>		
3 テーマに沿って計画を立て、学習を進める。	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のテーマを決定し、何を伝えたいかを明確にした上で調べ学習を進め、資料作成、発表練習を行う。 		
4 これまで学習したことについて発表する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふれあいまつりで、全校、保護者に向けて発表する。 		
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉について関心を持ち、自分なりにテーマを持つことができたか。(関心・意欲・態度) ○ 調べ学習の進め方について理解できたか。(問題解決力) ○ 自分のテーマについて様々な資料を基に調べ学習を進めることができたか。(問題解決力) ○ 福祉について感じたこと、周りの人に伝えたいことを明確にし、表現することができたか。(自己を見つめる力) 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



- 歴文には様々なバリアフリー施設があり、実際に見たり触れたりする事ができた。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 今回の歴史文化博物館見学は、社会科見学（警察署、消防署見学）とあわせて行い、昼食会場として芝生広場を解放していただいた。このことは大変ありがたいことである。
カリキュラムに余裕がなくなっている中で、歴史文化博物館見学のみで行うことはなかなか難しいが、他の教科の見学と同じ日に行い、「バリアフリーについて学ぶ」という目的で歴文見学を実施できたことはよかったと思う。
- 施設でみられるバリアフリーだけではなく、「手話」「点字」といったテーマを学ぶ児童も多かった。どのテーマにおいても、歴史文化博物館で実際にバリアフリーに触れたことで「どんなことに困っているか」「困っていることを取り除くためのどんな工夫が必要か」という学習の原点をしっかりと意識することができた。
- 歴史や文化を学ぶだけでなく、「バリアフリー」という視点からもたくさんのことが学べるということを実践できてよかったと思う。

4年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：ふるさと長崎体験学習	9月～11月	16時間
実践校：長崎市立村松小学校		授業担当者：南部弥生		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさと長崎の歴史や文化，伝統にふれ，ふるさと長崎に関心をもつ。 ○ 見学地でお世話になる方々への感謝の気持ちの表し方を考える。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎の文化や歴史に興味をもつ	1	○ 長崎歴史文化博物館の移動博物館の展示を見学することで，長崎の歴史や文化の一端に触れ，興味をもたせる（6月11日）	(1)	
2 ふるさと長崎の見学に行くことを知る	1	○ 長崎市中心部の坂本龍馬関連の史跡と歴史文化博物館に，見学に行くことを知り，見学活動の意義について簡単に話をする。	(1)	
3 坂本龍馬に関する出前授業を通じて，坂本龍馬について知る。	1	○ 歴文の研究員の出前授業を通して，坂本龍馬についての基本的な知識をもたせ，見学に向けての意欲をもたせる	(1)	
4 見学活動の計画を立てる	3	○ 見学活動の計画を立てる。	(1)	
5 見学活動に出かける	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ さるくガイドと共に，風頭公園から長崎歴史文化博物館まで移動する中で，坂本龍馬の関連施設を見学する。 ○ 歴史文化博物館で，研究員の方にガイドしていただき，長崎の歴史についての知識を深める。 ○ さるくガイドや歴史文化博物館の職員など地域の方との交流を通して，見学活動を充実したものとする。 	(2)	
6 新聞作りを行う。	3	○ 見学して分かったことを新聞にまとめる。	(3)	
7 活動をふり返る	1	○ できあがった新聞をもとに，感想を話し合う。	(4)	
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> (1) 長崎の歴史や文化に関心を持ち，自分の追求したい課題を見つけ，その課題に沿って追求することができたか。（課題を設定する力） (2) 設定した課題に対する自分の考え方を明確にし，見通しをもって追求し，課題を解決するために必要な情報を交換し，ともに協力しながら活動することができたか。（問題を解決する力） (3) 調べたことを分かりやすく伝える方法を選び，効果的にまとめ伝えることができたか。（表現する力） (4) 学んだことを基に，他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。（活かす力） 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



移動博物館（6月11日）



移動博物館（6月11日）



出前授業（9月22日）



出前授業（9月22日）



ふるさと長崎体験学習（11月15日）



ふるさと長崎体験学習（11月15日）



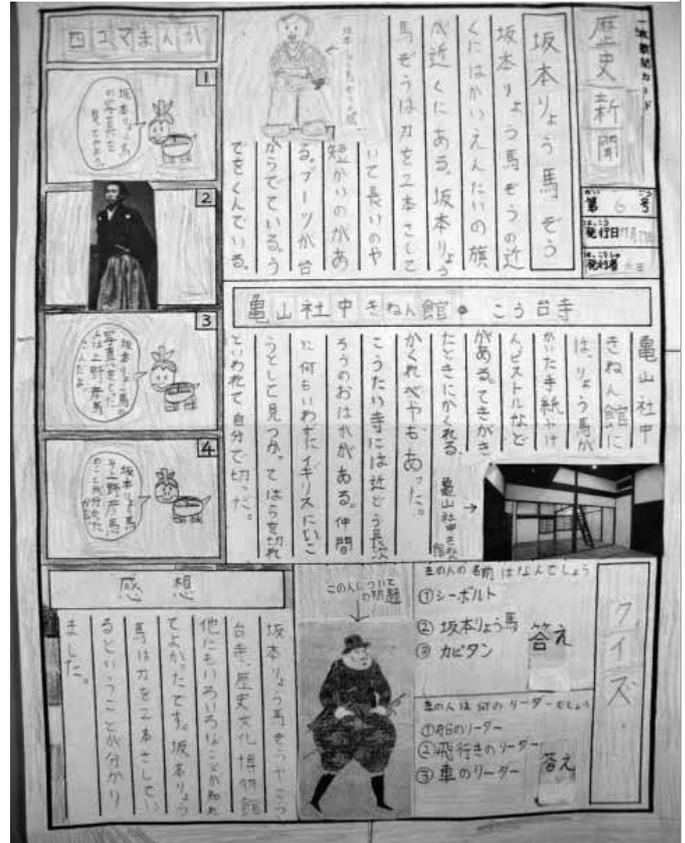
ふるさと長崎体験学習（11月15日）



ふるさと長崎体験学習（11月15日）



体験学習新聞



体験学習新聞

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 1学期の段階で、移動博物館を見ていたことが、今回の学習の導入となり、子どもたちがすんなりと長崎の歴史について学ぶことを受け入れることができた。
- 歴文とNHKのタイアップ企画、公開出前授業「坂本龍馬と幕末長崎」で、クイズ形式の楽しい授業で、子どもたちが龍馬のことを知りたいという気持ちがさらに強くなり、学習への意欲が高まった。
※この出前授業に関しては、6年生は社会科の歴史学習の一環として合同で授業を受けた。
- 歴文では1時間あまりの見学であったが、事前に十分な打合せをしていたため、効率よく見学することができた。
- 歴文では研究員の方々にクラスごとに張り付けていただき、楽しくていねいな説明を聞くことができた。

〈ふるさと長崎体験学習当日の日程〉

学校発→風頭山到着	8:50~9:50
さるくガイドとの見学	10:00~12:00
・龍馬像→亀山社中記念館→亀山社中資料館→皓台寺	
長崎公園（昼食）	12:30~13:30
長崎歴史文化博物館	13:40~14:50
・奉行所外観→南蛮屏風→長崎貿易・中国→惣町絵図・工芸→自由見学	
長崎歴史文化博物館発→学校着	14:50~15:40

4年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：ふるさと長崎体験学習	9月～10月	12時間
実践校：長崎市立村松小学校		授業担当者：田中英明 アドバイザー：南部弥生（昨年度担当）		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさと長崎の歴史や文化，伝統にふれ，ふるさと長崎に関心をもつ。 ○ 見学地でお世話になる方々への感謝の気持ちの表し方を考える。 			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 長崎の文化や歴史に興味をもつ。	1	○ オリエンテーションを行い，担任から長崎の歴史や文化についての話を聞き，ふるさと長崎について興味をもたせる。	(1)	
2 ふるさと長崎の見学に行くことを知り，コースを選択する。	1	○ 体験学習の意義について話をしたあと，3つのコースの概要を説明する。 ○ 自分の興味あるコースを選択させる。	(1)	
3 見学活動に出かける	5	○ それぞれのコースを長崎歴史文化博物館まで移動する中で，長崎の歴史や文化の関連史跡を確認する。 ○ 歴史文化博物館で，ボランティアの方に見学してきたコースごとのガイドしていただき，長崎の歴史についての知識を深める。 ○ 歴史文化博物館のボランティアガイドの方との交流を通して，見学活動を充実したものとする。	(2)	
4 新聞作りを行う。	3	○ 見学して分かったことを新聞にまとめる。	(3)	
5 お礼の手紙を書く。	1	○ 学習したことをもとに歴史文化博物館のボランティアガイドの方へお礼の手紙を書く。	(3)	
6 活動を振り返る。	1	○ できあがった新聞をもとに，感想を話し合う。	(4)	
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> (1) 長崎の歴史や文化に関心を持ち，自分の追求したい課題を見つけ，その課題に沿って追求することができたか（課題を設定する力） (2) 設定した課題に対する自分の考え方を明確にし，見通しをもって追求し，課題を解決するために必要な情報を交換し，ともに協力しながら活動することができたか。（問題を解決する力） (3) 調べたことを分かりやすく伝える方法を選び，効果的にまとめ伝えることができたか。（表現する力） (4) 学んだことを基に，他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。（活かす力） 			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

学習活動の実際

オリエンテーション・事前の活動

- オリエンテーションの中で、長崎の歴史について4年生ということもあり簡単に触れた。
 コースを3コースに分けることを知らせ、それぞれのコースの見所を紹介し希望をとったところ、調整することなく全員が希望通りのコースに入ることができた。

体験学習当日

- 3つのコースの主な経路とグループの人数は以下の通り

①坂本龍馬コース（児童21名+引率+保護者6名）

- ・上野彦馬宅跡→亀山社中資料展示館→龍馬のぶーつ→亀山社中記念館→眼鏡橋→長崎公園



②中国コース（児童23名+引率+保護者5名）

- ・孔子廟→(みさき道)→新地中華街→唐人屋敷跡→丸山公園→崇福寺前→眼鏡橋→長崎公園



③中島川コース（児童21名+引率+保護者2名）

- ・出島→県庁→土佐商会跡→眼鏡橋（中島川石橋群）→上野彦馬宅跡→諏訪神社→長崎公園



- 前記のそれぞれの経路に沿って、主な史跡の場所など子どもたちと一緒に確認していった。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

コースごとに時間をかけて見学できる施設を一つ以上入れた。

（龍馬コースでは亀山社中資料展示場と記念館，中国コースでは孔子廟，中島川コースでは出島）
ほかの史跡などは，場所の確認と簡単な説明のみに留める。（時間の都合と引率教員の知識の限界もある）

- 長崎公園で合流して昼食。
- 午後は歴史文化博物館にて，研究員の方（加藤さん）のガイダンスの後，それぞれのコースにボランティアのガイドさんが付き，常設展示室を見学，説明していただく。



事後の活動

- 個人で簡単な新聞を作成。他のコースの児童と交流することで，知識を共有していった。



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 長崎市のふるさと長崎体験事業の一環として、昨年度に引き続き旧琴海町の村松小学校は、旧長崎市内へ出かけ見学や地域の方々との交流活動を通して、学習をしていく機会をいただいた。
- 午前の活動は、長崎市の歴史、史跡に疎い教職員たちが児童を引率したが、午後からはボランティアガイドの方がきちんと控えていてくれるということで、安心して案内できた。
- 午後の活動は、ボランティアガイドの方がそれぞれのコースに個別につき、午前中に見てきた史跡などについて、展示室の資料を前に具体的に説明して下さった。何となく見てきたものが、いかにすごいものなのかを知り、児童に長崎のすばらしさを伝えることができたのではないかと感じることもできたのも長崎の歴史に詳しいボランティアガイドの方々のおかげであることは間違いない。
ボランティアガイドの方は、歴史についてよく知らない4年生の児童のため、とても優しい言葉で説明したり、児童がメモを取りやすいように繰り返し話したりしてくれた。また、たくさんのお話を話しても全て覚えるのは無理だろうから、たくさんはなしをする中でたった一つだけでいいから何か覚えて帰ってくれたらいいよと話していただいたことで、児童は少し気を楽しんで話を聞くことができた。
それだけでなく、朝からかなり歩いていることから、子どもたちの疲れた様子も感じて、子どもたちの状態にあったペースを作ってくれた。ボランティアガイドさんの細やかな配慮のお陰で、児童は歴史での学習がとても楽しくできたようだ。
今回、引率で10数人の保護者に来ていただいたが、初めて歴史に来た方も多く、歴史のよさが伝わったようだ。児童への解説が終わった後、数人の保護者がボランティアガイドの方に食いつき、質問している姿を見た。保護者がボランティアの方の知識の豊かさに感動していた。
- 児童が書いたボランティアの方へのお礼の手紙に対して返事をいただいた。児童は活動を思い出し、あらためて長崎の歴史について調べようという意欲が出てきた。
- 今回の活動がきっかけとなり、長崎のことについてかなり興味をもった児童が出てきた。
まず、自主学習で長崎の史跡について調べる児童がたくさん出てきた。また、家族で勉強して長崎検定（親子検定）を受けた児童や、中国コースを歩いた児童がランタンフェスティバル期間中唐人屋敷を両親に案内した児童もいた。
いつも、一人でもいいから長崎マニアになりそうな児童が出てくることを願っているのが嬉しかった。
- 来年度も実施できるなら、見学の実施後、琴海地区の歴史や史跡について注目させ、自分たちの住んでいる地域について調べられるようにつなげていけたらと考えている。



〈自主学習での取り組み〉



5年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：私たちの街 長崎	4月～3月	70時間
実践校：長崎市立桜町小学校		授業担当者：山田裕介		
目標	私たちの街長崎の歴史や文化について、見学したり話を聞いたりするなどの体験活動を通して、そのよさに気付く。また、調べる中で、長崎が果たした歴史的役割や、復興に向けた人々の願いや努力、工夫が長崎の今を築いていることを理解する。また、調べたことをまとめ発表することを通して、郷土を愛し、自分もそのよさを守り続けていこうとする心情を育てる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
「平和の街長崎」 1 原爆資料館見学・平和ウォークをしよう	10	○ 学習の導入として、長崎の平和の史跡・遺構を巡る「平和ウォーク」を行う。長崎に数多く残された平和の史跡・遺構を巡る中で、人々の平和への強い思いにふれさせる。	(1) (2)	
2 伝えよう！平和の街長崎	15	○ その後、原爆資料館見学に出掛け、原爆の悲惨さについてふれ、平和への思いを強くもたせ、その思いを伝えていきたいという心情を芽生えさせる。	(2) (3)	
「長崎の伝統文化を体験しよう」 1 長崎くんちについて知ろう	5	○ 長崎歴史文化博物館で毎年開催されている「くんち展」を見学することを通して、長崎くんちに込められた人々の思いを強く感じさせる。	(1) (2)	
2 桜っこくんちを成功させよう	25	○ 五嶋町の方に「龍踊り」を教えていただきながら練習を重ね、桜っこくんちで堂々と演技ができるようにする。	(2) (3) 桜っこくんち	
「長崎の歴史・文化・ゆかりの人物にふれよう」 1 長崎の歴史・文化・ゆかりの人物について知ろう	6	○ 長崎歴史文化博物館の常設展、龍馬伝館、唐人屋敷跡、グラバー園の見学を通して、中国やオランダとの交流から生まれた異国文化にふれ、そこにかかわった人物たちの活躍を知り、長崎の歴史に思いを馳せるようにする。	(1) (2)	
2 伝えよう！長崎のすばらしい歴史・文化	9	○ 長崎の誇るべき歴史・文化を多くの人に伝えるなかで、わたしたちの街長崎のすばらしさを再確認し、今後も守り続けていこうとする心情を育む。	(2) (3)	
評価 規 準	(1) わたしたちの街長崎の歴史や文化について、見学したり話を聞いたりするなどの体験活動をするなかで、そのよさに気付くことができたか。 (2) 長崎が果たした歴史的役割や、復興に向けた人々の願いや努力、工夫が長崎の今を築いていることをつかむことができたか。 (3) 長崎のよさをまとめたり、発表したりする中で、郷土を愛し、そのよさを守り続けていこうとする心情をもつことができたか。			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

「長崎の伝統文化を体験しよう」



屏風を解説してもらいながら、長崎の人のくんちにかける思いを感じます。

「魚尽くし」の傘ぼこのたれを見ながら、「すごい！」を連発していた子どもたち。



「長崎の歴史・文化・ゆかりの人物にふれよう」



「龍馬伝館」では、龍馬がかかわった人物と長崎とのかかわりについて学びました。

「龍馬伝館」最後の映像が分かりやすかったです。



龍馬とグラバーとの関係を知ってびっくり！



唐人屋敷について説明を受けています。その後、唐人屋敷跡に見学に行きました。



唐人船の模型と説明を熱心にメモしています（うれしい！）。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

桜町小学校の子どもたちは本当に幸せだと思う。近くに長崎歴史文化博物館をはじめ、諏訪神社や県立図書館、市立図書館や長崎市消防局、長崎警察署、市民会館に公会堂、大型商業施設や商店街、そしてサントドミンゴ教会跡資料館などがあり、とても恵まれた環境にいると思う。しかしながら「隣の花は赤い」というか「隣の芝生は青い」というか、自分たちの街のすばらしさに気付いていない子どもが多い。恥ずかしながら自分も福岡の大学に行き、初めて長崎のよさに気付いた一人である。小学校という多感な時期に、長崎のよさにふれ、郷土愛を育むことは、とても大切なことだと思う。故郷のすばらしさを知り、故郷を愛する人間になってほしいと願っている。

それぞれの学習の導入時にゆかりのある施設を見学し、実際に見て触れる体験活動を行ったため、子どもたちの意識はとても高く、単元を通してやる気が見られた。特に歴史文化博物館での見学は、学芸員の方が親切に解説をしてくださったこともあり、子どもたちは長崎のよさを新・再発見していた。さらに今年は大河ドラマで長崎・龍馬が取り上げられていることで、子どもたちの意識も高かったように思える。来年6年生になって歴史を学ぶ時、5年生の時に学んだことを思い浮かべながら、遙かなる歴史に思いを馳せてほしいと願っている。

平成22年度 歴文博教育研究プログラム活用授業(5年) 略案

実践校：長崎市立深堀小学校（実践案） 授業担当者：加藤尊城

◎実施日：平成22年12月?日(?)・?日(?)・?日(日)

◎「オランダを知ろう！オランダ冬至を体験しよう！」(3単位時間×2クラス)

◎単元の構成

- i) オランダと日本のつながりを知ろう！① … 1 単位時間（出前授業）
 - ii) オランダ冬至を体験しよう！ … 1 単位時間（出前授業）
 - iii) オランダと日本のつながりを知ろう！② … 1 単位時間（デリバリーミュージアム）
- ※ i) と ii) は、教室で実施。iii) は体育館で実施。

◎単元全体の留意事項

- ・ 本格的な歴史学習は6年生で行うので、ここでは歴史的な流れや背景に深入りしすぎないことが肝要である。
- ・ 日蘭の交流に関するごく初歩的な理解を目標とし、簡単な言葉や遊び、基本的な習慣の比較程度を通じて文化の違いとそのおもしろさに気づかせたい。

◎第1時間目

(1) ねらい

- ① 「長崎事始め」や、現代の長崎や日本に根付いている「言葉や衣食住」とオランダとの関係について知り、異文化への興味、関心を高める。
- ② オランダ語で挨拶を交わしたり、簡単な自己紹介をしたりする活動を通して、外国の言語に対する興味関心を高める。
- ③ オランダ語を使った「名前ビンゴ」に取り組むことを通じて、級友とのコミュニケーションを活発化させ、深める。

(2) 本時の流れ

過程	主な学習活動	備考・その他
導入5	<p>○担任が、本日の講師を紹介する。講師が自己紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の紹介は極めて簡潔に。 「どこからいらっしゃった、どなたか。」 という程度。時間にして10秒程度。 ・ 講師の自己紹介は、 「歴史文化博物館がどこにあって、元々どのような場所で、どのような役割を持っていたか。 また、現在、博物館がどのような働きを担って 	<p>板書ステッカー 「歴史文化博物館」 「講師名」</p>

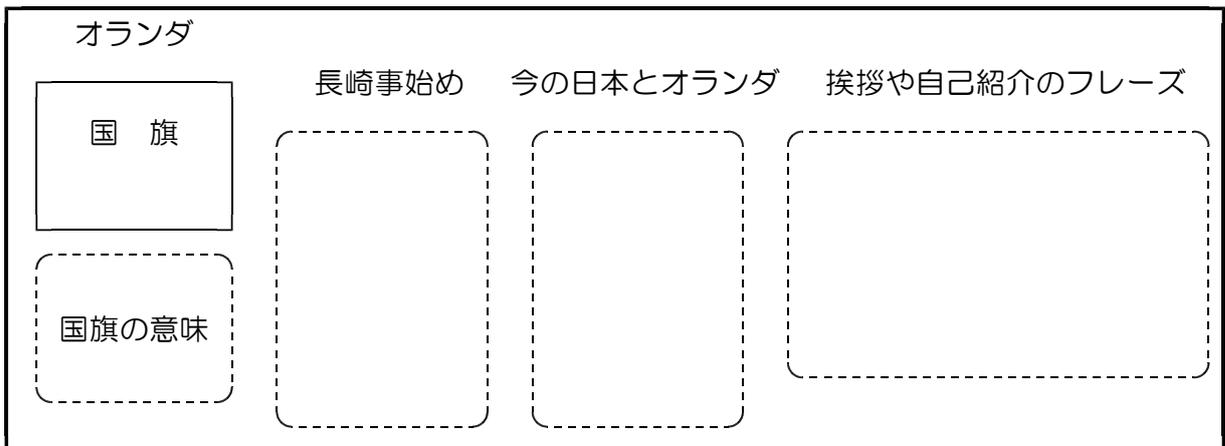
分 ／	<p>いるか。」 といった内容。時間にして5分程度。</p>	
展	<p>※ ここからは、講師が進行を主導する。担任はサポートに回る。(19分)</p> <p>○オランダ国旗とその意味</p> <p>「長崎事始め」に見るオランダとのつながり 「現代の言葉や衣食住」に見るオランダとのつながり → あまり深入りせず、児童らに 「へえ〜…!」「そうだったんだ〜!」 という程度の驚きを与えるぐらいでよい。</p>	<p>板書掲示 「オランダの国旗」 「事始めカード」 「言葉カード」 「衣食住カード」</p>
開	<p>○オランダ語での基本的な挨拶と自己紹介。</p> <p>英語で言う所の 「How are you?」「I'm fine. Thank you. And you?」「I'm fine too. Thank you.」 程度の挨拶と 「How are you? My name is ~.」 程度の自己紹介。 練習段階での指名等は担任が進める。</p>	<p>板書掲示 「挨拶のフレーズ」 「自己紹介のフレーズ」</p> <p>【評価②】</p>
31分 ／	<p>※ ここからは、担任教師が主導する。</p> <p>○オランダ語の挨拶や自己紹介を使って「名前ビンゴ」を行う。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「名前ビンゴ」については、児童も経験があるのでルールや方法についてはさっと確かめる程度。 講師にも加わってもらい、児童との親睦を深めていただく。 	<p>掲示資料 「ビンゴのルール」 配布教材 「ビンゴカード」 「ビンゴ用読み上げ名札」</p> <p>【評価③】</p>
ま と め	<p>○今日のふりかえりを行う。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任は机間巡視で児童らのふりかえりをチェックし、この後の発表指名に活かす。 <p>○ふりかえりを発表する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任は机間巡視で得た情報を元に、挙手指名、教師指名を行う。 数名の発表の後、ふりかえりカードを全て回収する。 	<p>「ふりかえりカード」 友達への気づき 学習感想</p> <p>【評価①】</p>
9分	<p>○講師に感謝の気持ちを伝える。(1分)</p>	<p>連続実施ならカット。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ あらかじめ代表児童を決めておいて感謝の言葉を準備させておく。 	その分の時間を「展開」に加える。
--	--	------------------

(4) 評価

- ① 「長崎事始め」や、現代の長崎や日本に根付いている「言葉や衣食住」とオランダとの関係について知り、異文化への興味、関心を高めることができたか。
- ② オランダ語で挨拶を交わしたり、簡単な自己紹介をしたりする活動を通して、外国の言語に対する興味関心を高めることができたか。
- ③ オランダ語を使った「名前ビンゴ」に取り組むことを通じて、級友とのコミュニケーションを活発化させ、深めることができたか。

(5) 板書計画



※ ビンゴルールについては、必要な時点でのみ板書中央辺りに重ねて掲示する。必要なくなったら外す。

(6) その他

◎第2時間目

(1) ねらい

- ① かつて出島で行われていた「オランダ冬至」の一部（ゲーム等）を疑似体験する事を通じて、異文化への興味、関心を高める。
- ② 前回学習したオランダ語の挨拶や自己紹介を押さえ直すことで、オランダ語により親しむ。
- ③ オランダの言葉を交わしたり、「オランダ冬至」での遊びを実際に行う中で、級友とのコミュニケーションを活発化させ、深める。

(2) 本時の流れ

過程	主 な 学 習 活 動	備考・その他
導	○担任が、本日の講師を紹介する。講師が自己紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ講師にご来校いただけた場合、ないしは第1時と本時を連続的に行った場合は、この段階をもつ 	

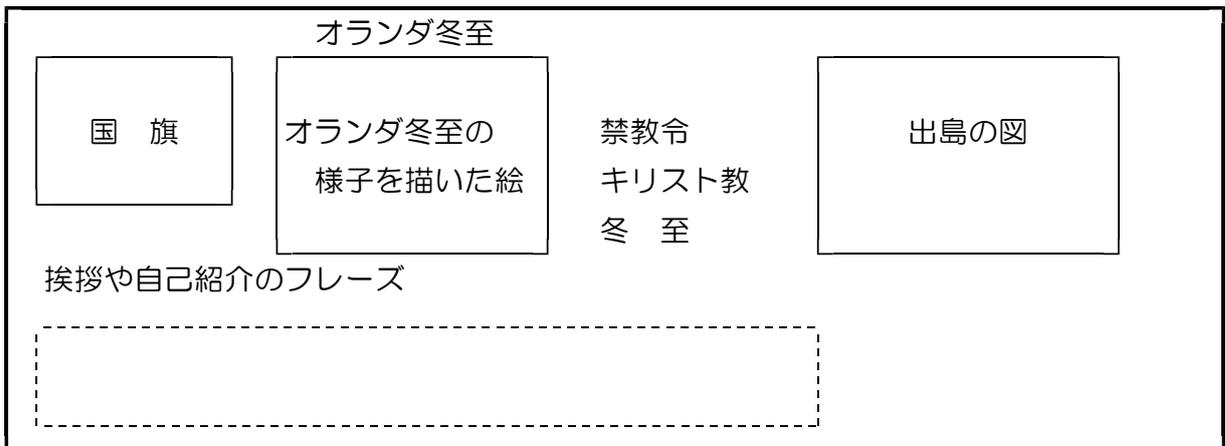
<p>入 3 分 ／</p>	<p>と簡素に流す。 「どこからいらっちゃった、どなたか。」 という程度。時間にして10秒程度。 ・ 講師の自己紹介は、 「オランダという国への興味、歴史を学ぶおもしろさ」 といった内容。時間にして5分程度。</p>	<p>板書ステッカー 「歴史文化博物館」 「講師名」 板書掲示 「オランダの国旗」</p>
<p>展</p>	<p>○前時のおさらい ・ オランダ語の挨拶や自己紹介を押さえ直す。 ・ 挨拶のフレーズを掲示し、一斉復唱を数回繰り返す。 ・ 一斉復唱の後、列指名、挙手指名などに切り替える。</p>	<p>板書掲示 「挨拶のフレーズ」 「自己紹介のフレーズ」 【評価②】</p>
<p>開</p>	<p>※ ここからは、講師が進行を主導する。担任はサポートに回る。(分) ○「オランダ冬至」についての説明 「出島」や「禁教」に関する簡単な説明 「オランダ冬至」の意味と命名の経緯 → やはり、あまり深入りせず、児童らに 「へえ〜…!」「そうだったんだ〜!」 という程度の驚きを与えるぐらいでよい。</p>	<p>板書ステッカー 「オランダ冬至」 「禁教令」 「キリスト教」 「冬至」 板書掲示 「出島の図」</p>
<p>31 分</p>	<p>→ 児童らは「冬至」そのものを知らない可能性がある。簡単に補足する必要があるかも。 ○「オランダ冬至」での遊びを体験 ・ 簡単な双六やカードゲーム系がのぞましい。 ・ 数の数え方や上がる時の言葉（「リーチ!」「ピン!」といった性質の物）があれば、それも使わせたい。</p>	<p>板書掲示 「ゲームの名前」 「ゲームのルール」</p>
<p>／</p>	<p>※ ここからは、進行の段階によって部分的に担任教師が主導する。</p>	<p>【評価③】</p>
<p>／</p>	<p>○今日のふりかえりを行う。(5分) ・ 担任は机間巡視で児童らのふりかえりをチェックし、この後の発表指名に活かす。</p>	<p>「ふりかえりカード」 友達への気づき 学習感想</p>

ま と め 11 分	<p>○ふりかえりを発表する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任は机間巡視で得た情報を元に、拳手指名、教師指名を行う。 ・ 数名の発表の後、ふりかえりカードを全て回収する。 <p>○講師に感謝の気持ちを伝える。(1分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あらかじめ代表児童を決めておいて感謝の言葉を準備させておく。 	【 評価① 】
----------------------------	---	---------

(4) 評 価

- ① かつて出島で行われていた「 オランダ冬至 」の一部(ゲーム等)を疑似体験する事を通じて、異文化への興味、関心を高めることができたか。
- ② 前回学習したオランダ語の挨拶や自己紹介を押さえ直すことで、オランダ語により親しむことができたか。
- ③ オランダの言葉を交わしたり、「 オランダ冬至 」での遊びを実際に行う中で、級友とのコミュニケーションを活発化させ、深めることができたか。

(5) 板書計画



※ ゲームの方法やルールについては、必要な時点でのみ板書中央辺りに重ねて掲示する。必要なくなったら外す。

(6) その他

◎第3時間目

(1) ねらい

- ① オランダを通じて日本に紹介された文物に関して、歴史的意味を持つ実物やレプリカに触れたり、見たり、解説員の方のお話を聞いたりする活動を通じて、異文化への興味、関心を高める。
- ② 今まで学習したオランダ語の挨拶や自己紹介をふりかえることで、オランダ語により親近感を感じる。